

国・奈良県におけるがん対策の取組経緯

資料3-2

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
国	4月 がん対策推進基本計画 閣議決定					6月 第2期がん対策推進基本計画		4月 がん対策評価指標	6月 中間評価		10月 第3期がん対策推進基本計画					6月 中間評価	3月 第4期がん対策推進基本計画 閣議決定	
県			10月 奈良県がん対策推進条例	11月 奈良県がん対策推進計画	3月 奈良県がん対策推進 アクションプラン	4月 医療政策部保健予防課がん対策係・ 健康福祉部健康づくり推進課新設	9月 奈良県がん対策推進議員連盟発足	3月 奈良県がん対策推進条例改正	3月 第2期奈良県がん対策推進計画	3月 中間評価とりまとめ		3月 第3期奈良県がん対策推進計画	4月 医療政策局疾病対策課がん対策係 組織改編		3月 中間評価とりまとめ		課題整理・検討	3月 第4期奈良県がん対策推進計画
	奈良県がん対策推進計画					第2期					第3期							

都道府県がん対策推進計画について(がん対策基本法第十二条)

都道府県は、がん対策推進計画を基本とするとともに、当該都道府県におけるがん患者に対するがん医療の提供の状況等を踏まえ、当該都道府県におけるがん対策の推進に関する計画(以下、「都道府県がん対策推進計画」という。)を策定しなければならない。

2 都道府県がん対策推進計画は、医療法(昭和二十三年法律第二百五号)第三十条の四第一項に規定する医療計画、健康増進法(平成十四年法律第百三号)第八条第一項に規定する都道府県健康増進計画、介護保険法(平成九年法律第百二十三号)第一百八条第一項に規定する都道府県介護保険事業支援計画その他の法令の規定による計画であってがん対策に関連する事項を定めるものと調和が保たれたものでなければならない。

3 都道府県は、当該都道府県におけるがん医療に関する状況の変化を勘案し、及び当該都道府県におけるがん対策の効果に関する評価を踏まえ、**少なくとも六年ごとに、都道府県がん対策推進計画に検討を加え、必要があると認めるときには、これを変更するよう努めなければならない。**

第4期計画のスケジュール

年度	令和4年											令和5年											令和6年					
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
事務局（県庁）													委員選任								パプコメ募集		議会報告	公募委員選任	議会報告			
各部会																												
協議会																												

事務局（県庁）	意見取りまとめ											意見取りまとめ											意見取りまとめ					第4期				
各部会	適宜意見聴取 部会随時開催 ・課題整理 ・指標検討など											適宜意見聴取 部会随時開催 ・3期計画最終評価 ・4期計画分野別検討											部会随時開催 ・最終案に向けた詳細の検討					第4期				
協議会	●協議会開催	部会での検討結果を審議											●協議会開催 ★骨子案	部会での検討結果を審議											●協議会開催 ★計画素案	部会での検討結果を審議					●協議会開催	第4期

「第4期奈良県がん対策推進計画」 全体目標の中間評価（案）

第4期奈良県がん対策推進計画 中間評価について

第4期奈良県がん対策推進計画の全体目標の中間評価を行い、課題と方向性を記載しました。

【評価】

A	基準値に対し、改善傾向にある
B	基準値から変化なし
C	基準値に対し、後退傾向にある
D	測定不能

【評価結果】

・指標の推移および評価（A～D）をもとに第4期奈良県がん対策推進計画の課題について記載。

全体目標

①県民がかんにならない、がんで亡くならない（がんで亡くならない県、日本一）

指標	出典	基準値	R6	R7	R8	目標値	評価
がんの75歳未満年齢調整死亡率	国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（人口動態統計）	62.4 (R3)	59.0 (R5)	60.3 (R6)	—	52.8 (R9)	A

②すべてのがん患者とその家族の苦痛が軽減され、安心、納得のいく療養生活を送ることができる。

指標	出典	基準値	R6	R7	R8	目標値	評価
これまで受けた治療に納得している患者の割合	ならのがんに関する患者意識調査	88.0 (R3)	—	92.1 (R7)	—	増加	A

③すべての県民ががんを知り、がんと向き合い、地域共生社会の中で自分らしく生きられる

指標	出典	基準値	R6	R7	R8	目標値	評価
現在自分らしい日常生活を送れていると感じる患者の割合	患者体験調査	70.5 (H30)	79 (R5)	—		増加	A

評価結果

- ・がんの75歳未満年齢調整死亡率は、基準値と比較して減少傾向。第3期計画策定時、12年後評価としており、今後も把握必要。
- ・これまで受けた治療に納得している患者の割合は、基準値と比較して増加。
- ・現在自分らしい日常生活を送れていると感じる患者の割合も基準値と比較して増加。

がん計画：評価作業シート

分野：●●

施策：

評価軸	確認ポイント	具体的な確認ポイント	情報源	評価結果
ニーズ評価	満たされていない 顕在的/潜在的 ニーズがあるか	患者等の声で満たされていないことは？	アンケート結果	痛みが取れていない場合の訴えがある。医療機関によって違いがあると受け止められている。
		他の地域に比べて劣後していることは？	地位別データ集等	分野アウトカムの指標が全国値の伸びより鈍い。中間アウトカムの指標で悪化したものもあり、NDBは低め。
		守るべき規範で満たされていないことは？	法令計画等	がん対策基本法、がん対策推進基本計画で緩和ケアは重要な位置づけとなっているが改善余地が大きい。
		■判定 この施策は・・・ (いずれかに○)		Aかなり満たされている B十分に満たされている Cある程度満たされていない D大幅に満たされていない
評価軸	確認ポイント	具体的な確認ポイント	情報源	評価結果
整合性 [セオリー] 評価	ロジックモデルの 左右のつながり に、論理的整合性 があるか	分野・中間アウトカムは適切か	いいとこ取りロジックモデル、他	適切であると考えられる。
		分野・中間アウトカムの指標は適切か	県のロジックモデルとの比較	適切であると考えられる。
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりは強いのか	協議会・部会での審議	検討の上で優先施策と位置づけたので、つながりは強いと考えられる。
		■判定 この施策は・・・ (いずれかに○)		A効果が期待できる Bやり方次第で効果につながる C効果につながりにくい D効果につながらない
実行 [プロセス] 評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算書	がん診療連携拠点病院機能強化事業費に含まれていると考えられる。
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	実施されたが、スクリーニングからアセスメント、緩和ケア実施へのつながりは、病院によって差がある。
		アウトプットが生まれているか	アウトプットの指標	スクリーニング率、アセスメント率が病院によって異なる。低い数値の病院がある。
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	つながりが産まれにくい要因として、いくつかのボトルネックが存在し、解消が必要と感じている。
■判定 この施策は・・・ (いずれかに○)		A予定通り実行されている Bほぼ実行されている C一部実施されている D実施されていない		
効果 [インパクト] 評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカムの指標値	指標は向上しているが、全国値と比べて迅速とはいえない。
		アウトプットの指標値とアウトカムの指標値の関係	アウトカムとアウトプットの指標値	スクリーニング率に比してアウトカム指標は向上していないが、アセスメント率とは一定の関係がある。
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	地元有名タレントが患者体験の中で緩和ケアの不備を訴えたことが指標に影響している可能性がある。
		■判定 この施策は・・・ (いずれかに○)		Aとても効果を出している B効果を出している Cあまり効果を出していない D効果を出していない
費用対効果 [コストパフォーマンス] 評価	効果は投入資源に見合っているか	費用に対して効果は十分に大きいのか	予算とインパクト評価の結果	追加費用なし。動き方の変更で可能。よってアウトカムが向上すれば、この項目は十分に満たされる。
		関係者はかけた労力をどう感じているか	関係者ヒアリング	川上の労力が川下で停滞した際には、徒労感が生じており、停滞要因への対応が期待されている。
		■判定 この施策は・・・ (いずれかに○)		Aとても投入資源に見合っている B投入資源に見合っている Cあまり投入資源に見合っていない D投入資源に見合っていない
総合評価	この施策をやり続けるべきか	続けるべき	協議会・部会審議での主な意見	スクリーニングとアセスメントをつなぐ仕組みが重要。好事例を広げることで病院差を解消していく。
判定	A	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき		
変更点、改善点等	来年度の部会の重点活動として、「アセスメント手順書、緩和ケアチーム連携手順書」を作成し、参加病院全体で標準運用を進める活動を行う。			

2024年8月2日
 沖縄県がん診療連携協議会
 「指標の計測」から「評価・改善」へ
 国際医療福祉大学大学院 埴岡健一氏の講演資料より

評価報告書の作成 (転記でOK)

評価作業シートイメージ

中間評価報告書イメージ

分野：〇〇〇〇 2020年 〇月 〇日

施策：〇〇〇〇〇〇

評価	確認ポイント	具体的な確認ポイント	情報源	評価結果
セオリー評価	のびのびする の左右の つながり に、協理的 整合性が あるか	分野・中間アウトカムの 連携 分野・中間アウトカムの 指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策 のつながりはあるか ■判定 この施策は… (〇〇〇〇〇〇)	他ののびのびする との比較 協議会・部会での 審議	中間アウトカムが未記載であったが、想定していたので、〇〇と表記した。 中間アウトカム指標が未設定であったが、国の指標と同じ指標を設定する。 表記した中間アウトカムと施策に整合性を確認した。 A 効果が見込める B やり方次第で効果につながる C 効果につながる B 効果につながる
プロセス評価	計画通りに 実行でき ているか	資源は用意されたか 施策は計画通りに実行 されているか 施策のアウトプットの指 標値は、計画通りか。 アウトカムの指標の予 算は入手しているか。 関係者は、実施上の課 題、改善案、改善策を どう扱っているか。 ■判定 この施策は… (〇〇〇〇〇〇)	予算書 実施報告書、関 係者ヒアリング アウトプットの指 標値 実施報告書な ど 関係者ヒアリング	予算化されおらず、試行的に行われていたの で、予算化を行う。 予定より3ヶ月遅れて実施に取りかかった。終了 時は計画されていた内容は8割程度終了した。 〇回実施し、対象者は〇人であった。目標値を達 成した。 入手し、モニタリングしている。 実施上のルールに関する情報共有をタイムリーに して欲しいという要望があった。 A 計画通り実行されている B ほぼ計画通り実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
インパクト 評価	施策がアウト カム改善 に効果を生 んでいるか	アウトカムの指標値は改善 したか。 アウトプットの指標値とア ウトカムの指標値の関係は 外部要因の影響は ■判定 この施策は… (〇〇〇〇〇〇)	アウトカムの指標 値 アウトカムとアウト プットの指標値 関係者ヒアリング	アウトカム指標の計画値は、〇年は〇%、〇年は 〇%で増加し、増加率は全国の平均値よりも大き かった。 〇人の対象に届き、約〇人の行動変容につながっ ていると推定される。 特に要因はなかった。 A 施策は大きな効果を出している B 施策は効果を出している C 施策はあまり効果を出していない D 施策は効果を出していない
コスト・パ フォーマンス 評価	効果は投 入資源に 見合っ ているか	費用に対して効果は十 分に得られているか 関係者はどう扱っている か ■判定 この施策の効果は… (〇〇〇〇〇〇)	予算とアウト 評価の結果 関係者ヒアリング	予算〇円で、約〇人の行動変容(1人あたり〇あ 万円)は十分大きく正当化できる。 短期集中で実施された。今後も同じペースで長期 的に継続できるか検討が必要。 A とも投入資源に見合っている B 投入資源に見合っている C あまり投入資源に見合っていない D 投入資源に見合っていない
総合 評価	この施策をやり続けるべきか	協議会・部会での 審議		この施策は、効果が確認されたため、 対象を広げて実施すべきである、とい う意見で一致した。ただし、関係者の 情報共有とアウトカム指標の精度向上 が必要。 総合判定 A

この施策は… A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

分野：〇〇対策

1. 分野全体の整合性評価
 - 1) 分野アウトカムの設定

第7期医療計画では記載していなかったが、「県民が〇〇〇〇〇〇〇〇できる」を目的と施策を推進しており、加筆することとした。指標も、他県と国の指標例を参考に「〇〇〇〇〇〇」を設定した。
 - 2) 中間アウトカムの設定

3つの中間アウトカムを設定し、それぞれ、「〇〇〇〇〇〇」「〇〇〇〇〇〇」「〇〇〇〇〇〇」と設定し、加筆することとした。
 - 3) 個別施策の追加

他県で成果を上げている〇〇事業について、当県でも実施を検討することとする。
2. 個別施策の評価
 - 1) 〇〇〇〇〇〇施策
 - (1) セオリー評価

追加記載された分野アウトカム「県民が〇〇〇〇〇〇〇〇できる」中間アウトカム「〇〇〇〇〇〇〇」につながるものであり、目的への効果が見込める妥当な施策と考えられる。
 - (2) プロセス評価

試行的に行われていたため〇〇事業費の中で予算化されていなかったが、予算化を検討する。内容もほぼ計画通りに実行され、アウトプットも目標値を達成した。実施上の情報共有をタイムリーに行って欲しいという実施関係者からの意見があった。施策は計画通りに実行された。
 - (3) インパクト評価

アウトカムの指標値は、前回調査時よりも〇%向上した。向上率は全国値よりも〇%高かった。施策は〇人を対象に行われており、約〇人の行動変容につながった。考えられる主な外部要因については意見はなかった。施策は効果を出していると考えられた。
 - (4) コスト・パフォーマンス評価

予算〇円で、〇人の行動変容につながっており(一人当たり約〇円)、正当化できる。今後中長期的に実施する場合の資源は要検討だが、投入資源に見合っている。
 - (5) 総合評価

以上より、本施策は現時点では効果がある可能性が高い施策として認められ、来年度は強化して継続して実施することが検討された。ただし、毎年、協議会によって成果を確認していく。
 - 2) 〇〇〇〇〇〇施策
 - (1) セオリー評価

.....(以下、各施策で繰り返します).....